

遺伝性乳がん卵巣がん症候群が疑われる方へ

遺伝子検査（発端者向け）の
説明および同意文書

東近江総合医療センター

第1版：2017年 9月 25日

説明書、同意書について

この説明書は、乳がんまたは卵巣がんを既に発症した方を対象にして BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（以下、BRCA1/2 遺伝子検査）について、担当医師による説明を補い、理解を助けるために説明したものです。あなたが「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」の可能性があるととして、自費診療による遺伝カウンセリング、遺伝子検査をご希望される場合は、最終ページの同意書にあなたご自身でご署名をしていただきます。

なお、この遺伝子検査を当病院で実施するにあたっては、東近江総合医療センター倫理審査委員会で科学的、倫理的な観点から審議・承認され病院長の許可を得ています。

1. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群とは

(1) “HBOC” とは

がんの多くは遺伝要因だけでなく環境要因も大きく関わって発生します。乳がんや卵巣がんも遺伝要因が強く関係して発症するのは一部です。

日本では毎年約 6 万人の方が乳がんと診断されますが、そのうち家族歴のあるかたは 15~20%で、遺伝性はおおよそ 5~10%といわれています。遺伝性乳がんの原因となる遺伝子はいくつかわかっており、そのなかで最も多くみられるのは BRCA1 と BRCA2 という遺伝子の変異によるものです。これらの変異があると乳がんと卵巣がんの罹患が多くみられることから、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」(HBOC と省略することもあります) とよばれています。

HBOC では、若い年齢での乳がんの発症、両方の乳房での乳がん発症、乳がんと卵巣がんの両方の発症が見られることがあります。また、複数の血縁者での乳がんや卵巣がんの発症や男性の血縁者での乳がん発症のような家族歴が見られることもあります。

(2) どのように遺伝するか？

ヒトが持っているほとんどの遺伝子は、父親から受け継いだものと母親から受け継いだもの、2 つで 1 組になっています。この 2 つ 1 組で持っている遺伝子のうち 1 つだけが、こども（次世代）に引き継がれます。どちらの遺伝子が引き継が

れるかは偶然によって決まります。ある人が持つ2つ1組の遺伝子のうち片方に
変異があった場合、その変異がこどもに受け継がれる確率は1/2(50%)です。

BRCA1/2 遺伝子に病的変異があったとしても、必ず乳がんや卵巣がんを発症
するわけではありません。ただし、がんを発症しなかったとしても、その変異がこ
ども(次世代)に受け継がれる確率は、1/2(50%)であることには変わりあ
りません。

2. BRCA1/2 遺伝子検査について

(1) 遺伝子検査の目的

BRCA1/2 遺伝子検査(発端者向け検査)では、BRCA1 遺伝子と BRCA2 遺
伝子を調べます。これらの遺伝子のどちらかに病的変異をあることが分かった場合、
遺伝要因の影響が大きく関与して、乳がんあるいは卵巣がんが発症したと言えます。
あなたに病的変異が見つかった場合には、あなたの血縁者があなたと同じ変異を持っ
ているか、遺伝子検査(血縁者向け検査)で確認することが可能になります。

この「発端者向け検査」の結果によって、あなたの血縁者に「血縁者向け検査」を
提供できるかどうかの判断をし、ご本人の希望により検査を行う事ができるのです。

あなたやあなたの血縁者に病的変異が見つかった場合は、今後の医学的管理におい
て重要な情報となります。

(2) 遺伝子検査の方法

BRCA1/2 遺伝子検査(発端者向け検査)は、採血(約7ml)をして、外部委託
検査会社により、血液から DNA を抽出して検査を行います。BRCA1 遺伝子と
BRCA2 遺伝子の塩基配列をひとつひとつ調べるため、検査結果をお返すまでに
3週間ほどかかります。

委託検査会社 株式会社ファルコバイオシステムズ
京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地

(3) 遺伝子検査の限界

乳がん・卵巣がんの既往歴や家族歴から HBOC と強く疑われる場合でも、必ず
BRCA1/2 遺伝子のどちらかに病的変異が見つかるわけではありません。その理
由として、今回実施した検査では検出されない病的変異を持っている可能性が考え

られます。また、BRCA1/2 遺伝子以外の遺伝子が、乳がんや卵巣がんの発症に
関与している可能性も考えられます。

(4) 結果の解釈

遺伝子検査の結果には、「陽性」「未確定」「陰性」の3種類があります。

- 「陽性」は、BRCA1/2 遺伝子の病的変異が見つかったことを意味します。つまり、
あなたが発症した乳がんあるいは卵巣がんは遺伝性であり、原発性の2つ目の乳
がんや卵巣がんを発症するリスクが高いと言えます。ただし、がんが、いつ、どの
部位に発症するのかということまで予測することはできません。
- 「未確定」とは、BRCA1/2 遺伝子に“ある変異”が見つかったけれども、それが
乳がんや卵巣がんの発症と関連付けられるのかが現時点でははっきりしていない
ことを意味します。よって、遺伝子検査の結果をすぐにあなたのがんのリスク評価
に役立てることはできません。ただし、今後研究データが収集され、その変異の意
味がはっきりするようになるかもしれません。
- 「陰性」とは、今回行った検査では、BRCA1/2 遺伝子に病的変異が見つからなか
ったことを意味します。しかし、今回行った検査では検出できない変異や、BRCA1
/2 遺伝子以外の遺伝子に病的変異がある可能性は否定できません。また、将来2
つめの乳がんや卵巣がんを発症するリスクが全くないということではありません
ので、一般の定期がん検診を受けることは必要です。

(5) 検査結果が血縁者に与える影響

遺伝子の情報は血縁者で共有することがあります。そのため、あなたが BRCA1
/2 遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、血縁者も同じ変異を持って
いる可能性があります。そのような場合には、血縁者も乳がんや卵巣がんの発症リス
クが一般よりも高い可能性があることを伝えて、がん予防の対策を立てていただくこ
とが望ましいとされています。また、血縁者が希望する場合には、その血縁者があな
たと同じ変異を持っているかについて遺伝子検査（血縁者向け検査）で確認するこ
とができます。

遺伝子検査の結果が血縁者のために有用であるときには、担当医師があなたに血縁
者への連絡などご協力をお願いする場合があることをご理解ください。ただし、あ
なたの承諾なしに血縁者および第三者に遺伝子検査の結果等をお知らせすることは
ありません。

3. 遺伝子検査により予想される利益および不利益について

(1) 予想される利益

遺伝子検査を受けた場合の利益は、検査結果や個人の考え方で異なります。以下には一般的に予想される利益についてお示ししますが、あなたにとってどんな利益があるのかを考えておくことが大切だと言われています。

<陽性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、原発性の2つ目の乳がんや卵巣がんを発症するリスクが高いと言えます。その情報が、早期発見・予防のためのリスクを考慮した検診や将来の人生設計に役立つことがあります。乳がんの手術では、温存療法が可能な場合でもあえて乳房切除術が選択肢として提示される場合や、さまざまな状況に配慮した上でリスク低減のため卵巣・卵管切除が選択肢として検討されることがあります。また、あなたの血縁者が希望する場合には、血縁者向け検査を受けることができるようになります。

<未確定あるいは陰性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つからなかった場合には、この検査結果から得られる有益な情報はありません。

(2) 予想されるリスクと不利益

遺伝子検査を受けた場合のリスクや不利益は、検査結果や個人の考え方で異なります。以下には一般的に予想されるリスクと不利益についてお示ししますが、あなたにとってどんなリスクや不利益があるのかを考えておくことが大切だと言われています。

<陽性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、あなたが将来2つ目の乳がんあるいは卵巣がんを発症するリスクが高いことを意味しますので、不安を抱えることになるかもしれません。また、あなたの血縁者が同じ変異を持っている可能性がありますので、血縁者のがんの発症に関する不安や罪悪感を持つことがあるかもしれません。

また、この遺伝情報が誰かに知られることによって、将来、社会的な差別（例えば、就職や生命保険の契約において）を受ける可能性が全くないとは言えません。

<不確定あるいは陰性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つからなくても、今回行った検査

では検出できない変異や、BRCA1/2 遺伝子以外の遺伝子に病的変異がある可能性は否定できません。乳がんや卵巣がん発症のリスクは、あなたの乳がんや卵巣がんの既往歴や家族歴を考慮して推定され、一般より高いと考えられます。遺伝要因が特定されなかったことで、遺伝子検査を受けたことに対して後悔するかもしれませんし、別の不安が生じるかもしれません。

(7) 遺伝子検査を受けないことによる利益と不利益

HBOC の可能性があっても、BRCA1/2 遺伝子検査を受けないことを選択される方もいます。例えば、遺伝要因をはっきりさせないほうが不安を抱かないという方もいらっしゃいますし、一方で遺伝要因がはっきりしないことによって不安が生じる方もいらっしゃいます。

遺伝子検査を受けないことによる利益と不利益は、個人の考え方で異なるので、あなたにとっての利益と不利益をよく考えておくことが大切だと言われています。

4. 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて

(1) プライバシーや検査試料の保護について

あなたのお名前や検査結果などあなたのプライバシーの保護には十分配慮いたします。

この遺伝子検査は外部の検査機関にて行われますが、あなたの血液（検査試料）を病院から出す前に名前などの個人情報は全て取り除き、個人を特定できない記号で検査の依頼をします。検査試料はあなたが希望する遺伝子検査にのみ使用され、あなたの承諾なしに他の検査に使用されることはありません。また、残った検査試料は、再検査に必要な場合に備えて外部の検査機関に一定期間保管されたのち、破棄されます。

検査結果は、あなたの承諾がない限り第三者に開示されることはありません。検査結果のご家族への開示については、あなたの意思を尊重します。

(2) 診療録（電子カルテ）への記載について

あなたの遺伝子検査の結果は、原則として他の臨床検査の結果と同様に、診療に関係する医療者が共有する情報として診療録（電子カルテ）に記載する必要があります。ただし、あなたやあなたの血縁者が希望された場合は検査の実施のみを記載し、

検査内容や結果は詳しく記載しません。

5. 遺伝子検査の費用について

BRCA1 / 2 遺伝子検査は保険診療ではなく、自費診療です。遺伝子検査にともなう遺伝カウンセリングも自費診療になります。

6. 遺伝カウンセリングについて

BRCA1 / 2 遺伝子検査は、検査結果だけ得られればよいというものではなく、検査を受けるかどうかの意思決定や、検査結果からもたらされる今後の医学的・社会的・心理的影響に対する支援が必要なため、遺伝カウンセリング体制のもとで実施しています。乳がんや卵巣がんの遺伝や遺伝子検査、検診や治療などについて疑問や心配がある場合には、遺伝カウンセリングでご相談ください。

遺伝カウンセリングの内容については、記載内容がプライバシーを損なう恐れがある場合、診療録（電子カルテ）と切り離して記載・保存するなど慎重に対応致します。

7. 遺伝子検査におけるあなたの自由意志について

BRCA1 / 2 遺伝子検査（発端者向け検査）を受けるかどうかは、あなたの自由な意思でお決めください。遺伝子検査を受けないでいることも、検査に一度同意しても途中で中止することもできます（ただし、中止のタイミングによっては、遺伝子検査の費用が発生する場合があります）。検査を受けないことや検査中止を希望されても、そのことによる不利益（例えば、当病院での今後の診療に支障をきたすこと）は一切ありません。

この文書を読まれてよく分からないことがあればお尋ねください。
遺伝子検査の実施に同意される場合には、同意書にご署名をお願いします。

BRCA1・BRCA2 遺伝子検査（発端者向け検査）に関する同意書

東近江総合医療センター
病院長 井上 修平 殿

私は、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（発端者向け検査）について、医師あるいは遺伝カウンセラーから説明を受け、以下の内容について理解しました。その上で、本遺伝子検査を受けることを自分の意思で決定し同意いたします。

- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群について
- BRCA1／2遺伝子検査について（目的、方法、検査の限界、結果について）
- BRCA1／2遺伝子検査を受けることによる利益と不利益
- 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて
- BRCA1／2遺伝子検査の費用
- 遺伝カウンセリング
- 遺伝子検査における自由意志について

本人記載欄

同意日： 20 年 月 日

本人署名 _____

担当医師記載欄

説明日： 20 年 月 日

説明医師名： _____

同意確認日： 20 年 月 日

補助説明者（必要な場合のみ）

説明日： 20 年 月 日

説明者名： _____

BRCA1・BRCA2 遺伝子検査（発端者向け検査）に関する同意書

東近江総合医療センター

病院長 井上 修平 殿

私は、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（発端者向け検査）について、医師あるいは遺伝カウンセラーから説明を受け、以下の内容について理解しました。その上で、本遺伝子検査を受けることを自分の意思で決定し同意いたします。

- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群について
- BRCA1 / 2 遺伝子検査について（目的、方法、検査の限界、結果について）
- BRCA1 / 2 遺伝子検査を受けることによる利益と不利益
- 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて
- BRCA1 / 2 遺伝子検査の費用
- 遺伝カウンセリング
- 遺伝子検査における自由意志について

本人記載欄

同意日： 20 年 月 日

本人署名 _____

担当医師記載欄

説明日： 20 年 月 日

説明医師名： _____

同意確認日： 20 年 月 日

補助説明者（必要な場合のみ）

説明日： 20 年 月 日

説明者名： _____

遺伝性乳がん卵巣がん症候群が疑われる方へ

遺伝子検査（血縁者向け）の
説明および同意文書

東近江総合医療センター
第1版：2017年 9月 25日

説明書、同意書について

この説明書は、血縁者のどなたかが BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（以下、BRCA1/2 遺伝子検査）を受けて病的変異がすでに見つかっている方を対象にして、担当医師による説明を補い、理解を助けるために説明したものです。あなたが「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」の可能性があるととして、自費診療による遺伝カウンセリング、遺伝子検査をご希望される場合は、最終ページの同意書にあなたご自身でご署名をしていただきます。

なお、この遺伝子検査を当病院で実施するにあたっては、東近江総合医療センター倫理審査委員会で科学的、倫理的な観点から審議・承認され病院長の許可を得ています。

1. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群とは

(1) “HBOC” とは

がんの多くは遺伝要因だけでなく環境要因も大きく関わって発生します。乳がんや卵巣がんも遺伝要因が強く関係して発症するのは一部です。

日本では毎年約 6 万人の方が乳がんと診断されますが、そのうち家族歴のあるかたは 15～20%で、遺伝性はおおよそ 5～10%といわれています。遺伝性乳がんの原因となる遺伝子はいくつかわかっており、そのなかで最も多くみられるのは BRCA1 と BRCA2 という遺伝子の変異によるものです。これらの変異があると乳がんや卵巣がんの罹患が多くみられることから、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」(HBOC と省略することもあります) とよばれています。

HBOC では、若い年齢での乳がんの発症、両方の乳房での乳がん発症、乳がんや卵巣がんの両方の発症が見られることがあります。また、複数の血縁者での乳がんや卵巣がんの発症や男性の血縁者での乳がん発症のような家族歴が見られることもあります。

(2) どのように遺伝するか？

ヒトが持っているほとんどの遺伝子は、父親から受け継いだものと母親から受け継いだもの、2つで1組になっています。この2つ1組で持っている遺伝子のうち1つだけが、こども（次世代）に引き継がれます。どちらの遺伝子が引き継が

れるかは偶然によって決まります。ある人が持つ2つ1組の遺伝子のうち片方に
変異があった場合、その変異がこどもに受け継がれる確率は1/2(50%)です。

BRCA1/2 遺伝子に病的変異があったとしても、必ず乳がんや卵巣がんを発症
するわけではありません。ただし、がんを発症しなかったとしても、その変異がこ
ども(次世代)に受け継がれる確率は、1/2(50%)であることには変わりあ
りません。

2. BRCA1/2 遺伝子検査について

(1) 遺伝子検査の目的

BRCA1/2 遺伝子検査(血縁者向け検査)では、あなたの血縁者で見つかった
BRCA1 遺伝子または BRCA2 遺伝子の病的変異と同じ変異をあなたが持っている
かどうかを調べます。すなわち、乳がんや卵巣がんを将来発症するリスクが高いのか、
もしくは一般集団と同程度であるのかを調べます。

あなたやあなたの血縁者に病的変異が見つかった場合は、今後の医学的管理におい
て重要な情報となります。

(2) 遺伝子検査の方法

BRCA1/2 遺伝子検査(血縁者向け検査)は、採血(約2ml)をして、外部委託
検査会社で検査を行います。血液からDNAを抽出して、あなたの血縁者で見つ
かった病的変異と同じ変異があるかどうかを調べます。検査結果をお返すまでに2週
間ほどかかります。

委託検査会社 株式会社ファルコバイオシステムズ
京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地

(3) 遺伝子検査の限界

BRCA1/2 遺伝子検査(血縁者向け検査)では、あなたの血縁者で見つかった病
的変異の部分だけを調べます。それ以外の領域について調べることはありません。

(4) 結果の解釈

遺伝子検査の結果には、「陽性」と「陰性」があります。

- ・「陽性」は、あなたの血縁者で見つかった BRCA1/2 遺伝子の病的変異と同じ病

的変異をあなたも持っていることを意味します。これによって、将来乳がんや卵巣がんを発症するリスクが高いと言えます。ただし、がんが、いつ、どの部位に発症するのかということまで予測することはできません。

- 「陰性」とは、血縁者の方で見つかった BRCA1 / 2 遺伝子の病的変異は、あなたには認められなかったことを意味します。つまり、あなたが将来乳がんや卵巣がんを発症するリスクは、一般の人と同程度と言えます。将来乳がんや卵巣がんを発症するリスクが全くないということではありませんので、一般の定期がん検診を受けることは必要です。

(5) 検査結果が血縁者に与える影響

遺伝子の情報は血縁者で共有することがあります。そのため、あなたが BRCA1 / 2 遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、血縁者も同じ変異を持っている可能性があります。そのような場合には、血縁者も乳がんや卵巣がんの発症リスクが一般よりも高い可能性があることを伝えて、がん予防の対策を立てていただくことが望ましいとされています。また、血縁者が希望する場合には、その血縁者があなたと同じ変異を持っているかについて遺伝子検査（血縁者向け検査）で確認することができます。

遺伝子検査の結果が血縁者のために有用であるときには、担当医師があなたに血縁者への連絡などでご協力をお願いする場合があることをご理解ください。ただし、あなたの承諾なしに血縁者および第三者に遺伝子検査の結果等をお知らせすることはありません。

3. 遺伝子検査により予想される利益および不利益について

(1) 予想される利益

遺伝子検査を受けた場合の利益は、検査結果や個人の考え方で異なります。以下には一般的に予想される利益についてお示ししますが、あなたにとってどんな利益があるのかを考えておくことが大切だと言われています。

<陽性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、乳がんや卵巣がんを発症するリスクが高いと言えます。その情報が、早期発見・予防のためのリスクを考慮した検診や将来の人生設計に役立つことがあります。また、あなたの血縁者が希望する場合には、血縁者向け検査を受けることができるようになります。

<未確定あるいは陰性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つからなかった場合には、この検査結果から得られる有益な情報はありますが、将来乳がんあるいは卵巣がんを発症する確率が一般より高いことに対する不安や、こどもに遺伝するかもしれないという心配から解放されるかもしれません。

(2) 予想されるリスクと不利益

遺伝子検査を受けた場合のリスクや不利益は、検査結果や個人の考え方で異なります。以下には一般的に予想されるリスクと不利益についてお示ししますが、あなたにとってどんなリスクや不利益があるのかを考えておくことが大切だと言われています。

<陽性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった場合には、あなたが将来乳がんあるいは卵巣がんを発症するリスクが高いことを意味しますので、不安を抱えることになるかもしれません。また、あなたの血縁者が同じ変異を持っている可能性がありますので、血縁者のがんの発症に関する不安や罪悪感を持つことがあるかもしれません。

また、この遺伝情報が誰かに知られることによって、将来、社会的な差別（例えば、就職や生命保険の契約において）を受ける可能性が全くないとは言えません。

<陰性だった場合>

あなたがこの遺伝子検査を受けて病的変異が見つからなかった場合は、乳がんや卵巣がんを発症するリスクは一般の人と同程度です。ただし、乳がんや卵巣がんのリスクが全くないという誤った認識を抱く場合があるかもしれません。また、陽性だった血縁者に対して、自分だけが助かってしまったと感じて罪悪感を抱くことがあるかもしれません。

(7) 遺伝子検査を受けないことによる利益と不利益

HBOCの可能性があっても、BRCA1/2 遺伝子検査を受けないことを選択される方もいます。例えば、遺伝要因をはっきりさせないほうが不安を抱かないという方もいらっしゃいますし、一方で遺伝要因がはっきりしないことによって不安が生じる方もいらっしゃいます。

遺伝子検査を受けないことによる利益と不利益は、個人の考え方で異なるので、あなたにとっての利益と不利益をよく考えておくことが大切だと言われています。

4. 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて

(1) プライバシーや検査試料の保護について

あなたのお名前や検査結果などあなたのプライバシーの保護には十分配慮いたします。

この遺伝子検査は外部の検査機関にて行われますが、あなたの血液（検査試料）を病院から出す前に名前などの個人情報は全て取り除き、個人を特定できない記号で検査の依頼をします。検査試料はあなたが希望する遺伝子検査にのみ使用され、あなたの承諾なしに他の検査に使用されることはありません。また、残った検査試料は、再検査に必要な場合に備えて外部の検査機関に一定期間保管されたのち、破棄されます。

検査結果は、あなたの承諾がない限り第三者に開示されることはありません。検査結果のご家族への開示については、あなたの意思を尊重します。

(2) 診療録（電子カルテ）への記載について

あなたの遺伝子検査の結果は、原則として他の臨床検査の結果と同様に、診療に関係する医療者が共有する情報として診療録（電子カルテ）に記載する場合があります。ただし、あなたやあなたの血縁者が希望された場合は検査の実施のみを記載し、検査内容や結果は詳しく記載しません。

5. 遺伝子検査の費用について

BRCA1 / 2 遺伝子検査は保険診療ではなく、自費診療です。遺伝子検査にともなう遺伝カウンセリングも自費診療になります。

6. 遺伝カウンセリングについて

BRCA1 / 2 遺伝子検査は、検査結果だけ得られればよいというのではなく、検査を受けるかどうかの意思決定や、検査結果からもたらされる今後の医学的・社会的・心理的影響に対する支援が必要なため、遺伝カウンセリング体制のもとで実施しています。乳がんや卵巣がんの遺伝や遺伝子検査、検診や治療などについて疑問や心配がある場合には、遺伝カウンセリングでご相談ください。

遺伝カウンセリングの内容については、記載内容がプライバシーを損なう恐れがある場合、診療録（電子カルテ）と切り離して記載・保存するなど慎重に対応致します。

7. 遺伝子検査におけるあなたの自由意志について

BRCA1／2遺伝子検査（血縁者向け検査）を受けるかどうかは、あなたの自由な意思でお決めください。遺伝子検査を受けないでいることも、検査に一度同意しても途中で中止することもできます（ただし、中止のタイミングによっては、遺伝子検査の費用が発生する場合があります）。検査を受けないことや検査中止を希望されても、そのことによる不利益（例えば、当病院での今後の診療に支障をきたすこと）は一切ありません。

この文書を読まれてよく分からないことがあればお尋ねください。
遺伝子検査の実施に同意される場合には、同意書にご署名をお願いします。

BRCA1・BRCA2 遺伝子検査（血縁者向け検査）に関する同意書

東近江総合医療センター
病院長 井上 修平 殿

私は、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（血縁者向け検査）について、医師あるいは遺伝カウンセラーから説明を受け、以下の内容について理解しました。その上で、本遺伝子検査を受けることを自分の意思で決定し同意いたします。

- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群について
- BRCA1 / 2 遺伝子検査について（目的、方法、検査の限界、結果について）
- BRCA1 / 2 遺伝子検査を受けることによる利益と不利益
- 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて
- BRCA1 / 2 遺伝子検査の費用
- 遺伝カウンセリング
- 遺伝子検査における自由意志について

本人記載欄 同意日： 20 年 月 日
本人署名 _____

担当医師記載欄 説明日： 20 年 月 日
説明医師名： _____
同意確認日： 20 年 月 日

補助説明者（必要な場合のみ） 説明日： 20 年 月 日
説明者名： _____

BRCA1・BRCA2 遺伝子検査（血縁者向け検査）に関する同意書

東近江総合医療センター

病院長 井上 修平 殿

私は、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子検査（血縁者向け検査）について、医師あるいは遺伝カウンセラーから説明を受け、以下の内容について理解しました。その上で、本遺伝子検査を受けることを自分の意思で決定し同意いたします。

- 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群について
- BRCA1 / 2 遺伝子検査について（目的、方法、検査の限界、結果について）
- BRCA1 / 2 遺伝子検査を受けることによる利益と不利益
- 個人情報および個人遺伝情報の取り扱いについて
- BRCA1 / 2 遺伝子検査の費用
- 遺伝カウンセリング
- 遺伝子検査における自由意志について

本人記載欄

同意日： 20 年 月 日

本人署名 _____

担当医師記載欄

説明日： 20 年 月 日

説明医師名： _____

同意確認日： 20 年 月 日

補助説明者（必要な場合のみ）

説明日： 20 年 月 日

説明者名： _____